「体外循環技術」 投稿・執筆規定

[2021年7月1日 改定]

- 1. 『体外循環技術』では、体外循環技術、心臓血管外科手術、それに関連する生体計測、機器の安全管理および開発に関係する総論、原著論文、研究論文、研究速報、技術開発、症例報告、技術報告、教育・安全など、他誌に未発表の和文原稿(英語は原著のみ)を掲載します。
- 2. 投稿は、共著者を含め原則として本会員とします。 ただし、依頼原稿の場合はこの限りではありません。
- 3. 投稿原稿の採否は、編集会議で討議して通知します。また、編集規定に従い、原稿の加筆、訂正、削除などのお願いをする場合があります。
- 4. 原稿提出の基本
 - 1) 論文の文字数は 9,200 字以内を推奨し、図表 1 枚 につき約 400 字を減じてください。総説、原著 は編集部までご相談ください。
 - 2) 原稿の大きさは、A4 判(縦) 横組みで 1 行 32 字× 25 行(800 字) とします。
 - 3) 提出原稿は、原則として漢字混じりひらがな日本語で、常用漢字および現代かなづかいを使用し、フォントはすべてMS明朝体にしてください。
 - 4) 図表の合計は10点以内を目安にしてください。
 - 5) 提出書類
 - (1) 原著論文以外
 - a. 論文全体の印刷された原本 1部
 - b. 論文、図表データを記録した CD-R または DVD-R
 - c. 「体外循環技術」進行表
 - d. 原稿投稿時チェックリスト (共著者2名以 上の署名と印鑑)
 - e. COI 開示申告書
 - (2) 原著論文
 - a. 論文全体の印刷された原本 1部
 - b. 印刷原本のコピー 2部
 - c. 論文、図表データを記録した CD-R または DVD-R
 - d. 「体外循環技術」進行表
 - e. 原稿投稿時チェックリスト(共著者2名以上の署名と印鑑)
 - f. 誓約書(自筆署名と印鑑)
 - g. 同意書(共著者全員の同意署名と印鑑、FAX も可)

- h. COI 開示申告書
- 6)「体外循環技術」進行表、原稿投稿時のチェック リスト、誓約書、同意書、COI 開示申告書は当 学会ホームページの「学会誌」からダウンロー ドしてください。
- 5. 投稿原稿の1頁目には、次の事項を記載した表紙を付けてください。記載は、日本語と英語の両方で、項目ごとに日本語の下に必ず英語で記載してください。
 - 1) 題名 (日本語・英語) サブタイトルには、前後にダブルハイフォン (--) を付けてください。
 - 2) 施設名・所属(日本語・英語は筆頭者所属のみ) 所属の異なる場合は改行し、先頭に1)、2)の 番号を付けて記載してください。
 - 3) 著者および共著者 所属の異なる場合は、名前の右端上に、名前¹⁾、 名前²⁾ のように番号を付けて区別してください。 参考文献として使用される場合、共著者が3名 以上のときには、最初の2名(著者を含む)と、 最後の1名が通常記載されますので、共著者の 記載順位には特に留意してください。
 - 4) 連絡先 筆頭者の郵便番号、住所、所属、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを記載してください。
- 6. 要旨と索引用語
 - 原稿の2頁目には、結果を簡潔にまとめた 480字 (32字×15行) 以内の要旨 (和文) と索引用語 (Key words) を記載してください。 Key words は、日本語と英語で記載してください。 (注…Key words の日本語は 5 用語以内とします。ただし、1 用語は 10 字以内です。)
 - 2) 原著は、400 words 以内の英語要旨も記載してく ださい。
- 7. 原稿執筆の順序 (原稿の3頁目から)

1)	日山	来早1+	以下のよう	17	1 7	ノギャル
1/	元山	し笛りは、	以 りょう	/ V -		11-61.

I	見出し
1	・小見出し
1)	

/- \		
1)		

2) 研究論文、研究速報および症例報告の記載は、

以下のようにしてください。ただし、研究方法 については、対象、症例、方法は別々でも構い ません。

- I. 緒言 (はじめに、まえがき)
- Ⅱ. 研究方法 (対象、症例、方法)
- Ⅲ. 研究結果 (結果)
- IV. 考察
- V. 結論 (結語、まとめ、おわりに)
 - ○参考文献……20 以内とする。
 - ○図表表題一覧…… 図表の表題を1枚の原稿用紙にまとめたもの。

○図表…… 図表は、それぞれ1枚 を原稿用紙1枚に印刷 する。

8. 参考文献の記載方法

本文中の参考文献番号は、右肩付文字で下記の要領で記載してください。共著の場合は、その氏名を3人(最初の2名と最後の1名)とし、3名以外の扱いは、「例)3人目の氏名、ほか:〕と記載してください。

- 1) 文献の本文中への番号記入例
 - (1) 文献が単一の場合
 - → 山田らの報告では¹⁾、
 - (2) 文献が複数の場合
 - → 赤血球変形亢進については 1.2.6)
 - (3) 文献が連続で複数の場合
 - → 一般的に言われている ⁷⁻¹⁰⁾
- 2) 参考文献の書き方
 - (1) 雑誌の場合

著者名, 共著者名, 共著者名, ほか:論文題名, 雑誌名, 巻(号);初頁-終頁, 発行年.

- 例) 酒井 敬, 榊 成彦, 早田展章, ほか: 急性心筋 梗塞を合併した左室破裂の治療と予防. 日胸外会 誌, 46 (12): 1039-1042, 1992.
- 例) Kopp KF, Gutch CF, Kolff WJ, et al.: Single needle dialysis. Trans Am Soc Aretif Intern Organs, 18: 75-90, 1972.
- (2) 単行本の場合

著者名:書名. 版, 出版地, 出版社. 発行年. 初頁-終頁.

- 例) 木全心一: 右室機能とその評価法. 初版, 東京, 中外医薬社. 1986. p133-138.
- 例) 草川 實 編 (または監): 体外循環の実際. 初 版, 東京, 南江堂. 1991. p5-22, p197-206.
- 例) Stern C. (田中克己訳): 人類遺伝学. 15 版. 東京, 金原出版. 1988. p230-348.
- 例)Pichlmayr RJ: Liver transplantation and impendig hepatic failure. Pichlmayr RJ.

 (ed by Schmidt FW.): Liver transplantation and hepatic failure. Berlin, Springer-Verlage.

1981. p322-348.

- (3) オンラインリソースの場合 発行機関(団体), タイトル,発行年月日,引 用ページ, URL, アクセス年月日.
 - 例) 厚生労働省医薬食品局安全対策課、人工心肺装置 の標準的接続方法とそれに応じた安全教育等に関 するガイドライン、今後の人工心肺操作教育のあ るべき姿、p87-93、平成19年3月. http://www. mhlw.go.jp/topics/2007/04/dl/tp0427-10-16.pdf. Accessed 23 June 2016.
- 3) 論文品質を考慮し、編集委員会では当学会誌や 他誌の大会抄録、地方会大会抄録、レター、ノー ト、コメントなどの文書は認めない場合があり ます。ご注意ください。
- 9. 図表の規定(写真は図として扱う)
 - 1) 図表に使用する文字は、すべて MS 明朝体を使用してください。
 - 2) 図と表は、パソコンによる作図とし、汎用アプリケーションに貼り付けて提出してください。 なお、編集部において専門業者による作図を要すると判断した場合は、著者にこの旨を確認の うえ、著者の実費負担とします。
 - 3) 大きな図表 (2,300 文字相当) の大きさは、A4 用紙1頁以内に収まるものとしてください。
 - 4) 表の縦の罫線は、原則として省きます。横の罫線もできる限り省略してください。行間は、本誌の行間と同じ程度(2 mm)にしてください。写真のファイルは JPEG とし、製本時の白黒グレースケールへの変換と明暗調整に留意して作成してください(カラー写真は不可とします)。また、矢印、スケールなどは、図表の中に焼込むか、編集部にご相談ください。提出する図表は、投稿者自身が決めた大きさで掲載も可能です。編集部にご相談ください。
 - 5) 図表の掲載位置は、およその場所を本文中の右 欄外に、図 1、表 1 のように赤のペンで朱記し てください。
 - 6) 図表は、A4用紙1枚にそれぞれ1枚ずつ印刷し、 表題は、図は図の下に、表は表の上に、また、 表の注訳は表の下にそれぞれ記載してください。 更に、各表題は別紙にまとめ、下記のようにそ れぞれ通し番号を付けて図表表題一覧を作成し てください。
 - 例) 図1 体外循環回路
 - 図2 患者各部の温度変化
 - 表1 患者背景
 - 表2 人工肺の仕様

10. 著作権について

掲載された論文の著作権は日本体外循環技術医学会が保有し、一般社団法人学術著作権協会に管理委託を行います。論文採択後、学会より著作権受託書が郵送されますので、必要事項を記入の上、返送してください。

11. 臨床研究の利益相反 (conflict of interest: COI) 開示について

- 1)本学会ホームページ(会員専用ページ)に掲載の「COIに関する指針」に従い、当該研究論文の著者および共著者のCOI状態を適切に開示するものとします。
- 2) COI 状態にある場合は、所定の様式に則って申告してください。
- 3) 論文の末尾(「結語」と「参考文献」)の間に、 COI 状態の有無を必ず記載してください。

【COI 状態にある場合の記載方法】

著者名:営利団体名。他の著者に開示すべき COI はない。

【COI 状態にない場合の記載方法】

本稿のすべての著者には規定された COI はない。

12. 別刷りに関して

原著、解説、総説、研究論文に50部を無料にて進 呈致します。ただし、進呈数以上を希望される場合お よび大会で発表した論文は出版社規定の料金とさせて いただきます。著者校正稿で申し込みください。

13. 原著論文の採択

- 1) 論文は和文または英文で作成し、英文の場合は 和論文(re-make 版)を編集部まで同時投稿し てください。和論文を Re-make した英論文は会 誌収載から1年以内とします。
- 2) 原著論文の査読審査は、非会員(有識者)の査 読委員が行います。
- 3) 採択通知後、著者から英語要旨(Abstract)を 執筆者の責任で専門業者の確認書または内容証 明書を編集部にお送りいただきます。最終書類 の到着をもって、論文採択日とします。
- 4) 原著論文は図表注釈の英語記載(100 words 以内)も可とします。編集部と掲載について協議してください。
- 5) 和英双方の論文は、英語タイトル、著者、共著者、論旨、参考文献などすべて合致させてください。

14. 原稿の郵送

1) 原稿の送付は、原本1部(原著はコピー2部も

必要)他に、題名、施設名、所属、著者および 共著者、連絡先、和文要旨、索引用語、本文、参 考文献、図表、図表の表題一覧などの電子デー タを収録した CD-R または DVD-R (使用 OS 明 記のこと)を下記、編集部にお送りください。

- 2) 送付された原稿が編集部に届き、開封後の必要 書類の確認をもって、論文受領日とします。
- 3) 送付していただいた投稿原稿、記録されたディスクは著者に返却しません。編集部で責任をもって処分させていただきます。ただし、原著が不採用の場合、お送りいただいた書類・ディスクは、返却させていただきます。

15. 電子投稿

- 1) 原著論文以外に限って、Email の添付データと して投稿を受け付けます。受稿トラブル防止の ため送信前にあらかじめ下記編集部までメール でご連絡ください。
- 2) 論文本体は、標準的なソフトで作成し、お送り ください。電子データは、作業処理後に編集部 で責任をもって処分させていただきます。
- 3)「原稿投稿時チェックリスト」および「進行表」 は会誌または HP からプリントアウトされ、必 要事項記入後に PDF 化などされ、電子データで 添付してください。

16. その他の注意

- 1) 当学会投稿査読中に他の学会誌、商業誌などへ 同内容の論文や記事を投稿しないようお願いし ます。海外学会誌への投稿も同様です。
- 2) 図にメーカーカタログの写真を転用される場合 は必ず許可を得て、図の注釈に引用先を明示し てください。また他誌、Webからの図表の引用 も必ず製作者、著者の許可を得て、引用先を明 記してください。
- 3) 医療機器、診療材料などの臨床使用評価や性能 比較報告の際は、メーカーの営業活動を妨害し ないよう配慮して作成してください。
- 4) 投稿論文の中には特許権に抵触する知見報告も 散見します。ご注意ください。

《JaSECT 編集部》

〒 453-8511 名古屋市中村区道下町 3-35 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 臨床工学技術課内

開 正宏

TEL: 052-481-5111 (内線 448836) E-mail: jasect_hensyu@jasect.jp

『体外循環技術』進行表

チェックリストといっしょにもれのないよう記載し、原稿に同封して提出してください。

太線枠内…執筆者記入

	(演題番号)
原稿名	
	 −
連絡先	
	🏗 – – , Fax – –
	e-mail (@)
施設名	
所属部署名	
著者名	役職名 JaSECT 正会員 No
論文の分類	□原著論文 □大会発表論文 □
COIの開示	□有 □無
COI OF IEE	「有」の場合:氏名() 営利団体名()
	二重線枠内…編集委員会記入
原稿受取日	年 月 日
担当者	□内容確認 □受領書
論文分類確認	□原著論文 □大会発表論文 □
査 読 1	氏名
查 読 2	氏名 / / / /
掲載予定	通卷
出版社入稿日	年 月 日 □電子ファイル □郵送

JaSECT 編集委員会 2014010 Ver.3.2

原稿提出時のチェックリスト

(原稿、進行表といっしょに提出してください。下記のチェックボックスに不備がある場合は原稿を返却いたします)

演題番号:			施設名:
图 名:			
			<i></i>
□ 「体外循環技	5 術」投稿執筆規程〔2017 年 10	0月7日改定分〕を読み	み同意するか?
【重要】本論	文と同内容または類似論文を	他の学会や研究会へ投稿	稿していないか? □はい
			を DVD または、CD-R に記録したか?
メディアの	フォーマットタイプは 🗌 MS	S-DOS MacOS	
」 メディアの	ファイル形式は本文は 🗌 Wo	ord Pages 図表	は □ PowerPoint □ Excel □ Numbers
」 メディアに 対	演題番号、演題名、氏名を記載	找したか?(シール貼付	けは厳禁とします)
共著者の査	読は?	氏 名	<u> </u>
(最終共著者	(名を必ず含むこと)	氏 名	0
		氏 名	@
□ 原稿の大き	さは A4 判(32 字× 25 行)で	フォントは全て MS 明	朝体か?
□ 題名の記載	it?		日本語・英語表記必要
一 施設名・所	属の記載は?		日本語・英語表記必要
著者および	共著者の記載は?		日本語・英語表記必要
連絡先 (施	設住所、電話、FAX および E	-mail) の記載は?	日本語・英語表記必要
論文の投稿	分類は? □原著論文	□投稿研究論文	□大会発表 (研究) 論文
和文要旨は	480 字以内か?		
索引用語は	5 用語以内(1 用語→日本語 1	0 字以内、英語 3words	;以内)か?
見出し番号	は? I	見出し	
	1		
	1)		
	(1)		
□ 記載方法は	? I. 緒言(はじめに、ま		
	Ⅱ. 研究方法(対象、症	 臣例および方法)	
	Ⅲ. 研究結果 (結果) Ⅳ. 考察		
	V. 考察 V. 結論 (結語、まと)	カ おわり <i>に</i>)	
参考文献は	本文中の引用箇所に番号順に		
	本文中の別用固所に留う順に 番号順に記載した一覧表は作成		
	覧表の各文献の表示著者数は3		2
	一の図表は禁止) は鮮明か? i		
			時はP.P などに1ページずつ)
	は記載した(表題は、表の場合		
	右余白に、図表の掲載場所を記		
	一覧はあるか?	か 子 C 記載 () イ ス トゥ	(ソノスでもよい) じたが!
		5か?	□いいえ
	寺の確認項目です。原著の投稿は郵送の		UVVX
	編集委員会が委託する有識者で組織した。		: 方が沖電!ます。
	■ 果要貝式が要託りる有識者で組織した。 コピー2部(図表、文献も含む		.// // // // // // // /
	コピー 2 部(図表、文献も含む 【内の英語要旨は記載したか?		内容証明が必要にかります
			Practical Process of the Process o
」 原石細文原 連絡欄:	平、門息百、百利百、UUI 用人	ハヤロ百、 進行 衣、 半7	・エッノソヘド、CD OI DVD-K V/ 1 性規
庄桁T喇·			
, , , , ,	5の批論の際は単紀士に七田が計する。	DDD - / 11 + Works 1 No. 20	コールトロート ローム学り / ボタン
メールし	『の投稿の際は進行表と本用紙記入後に』	ロローノフィルをTF以し、他の5	/ / こ V・つ しょ に わ 込 リ \ に さ V to

JaSECT 編集委員会 201208 Ver.4.0

「体外循環技術」誌投稿へのCOI開示申告書

	環技術医学会 COI 究・論文、刊行物に		- 者の産学連携利益	年 月 日 相反状態を申告いたします。
論文名(和名)				
申告者		E	<u> </u>	6号
	氏 名	所 属	COI 状態	注2) 開示内容
著者			□有 □無	
			□有□無	
			□有□無	
			□有 □無	
共著者			□有 □無	
共省名			□有□無	
			□有 □無	
			□有 □無	
			□有 □無	
主2) 開示内容は		いら1年前となります。 反に関する指針」4. 開示公園	開すべき事項に沿い	、該当する下記の番号①~⑨および営利

①企業や営利を目的とする団体の役員、顧問職、社員などへの就任、②企業の株の保有、③企業や営利を目的とする団体からの特許権などの使用料、④企業や営利を目的とする団体からの会議の出席(発表)に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当(講演料など)、⑤企業や営利を目的とする団体がパンフレットなどの執筆に支払った原稿料、⑥企業や営利を目的とする団体が提供する研究費(治験、臨床試験費、共同研究費、寄付金など)、⑦企業や営利を目的とする団体から奨学寄付金(奨励寄付金)を受けている場合、⑧企業や営利を目的とする団体などの寄付講座、⑨企業や営利を目的とする団体からの旅費(学会参加、施設の視察)や贈答品の受領

以下 編集委員会記入欄

文書(論文) No.	編集委員長確認	備考

JaSECT 編集委員会 2014029 Ver.1.1

『体外循環技術』 投稿原稿のしおり

日本体外循環技術医学会·編集委員会 2013年4月1日

本稿は、医学論文を執筆するために必要と考えられる医学論文の種類、一般的な実験的研究論文の構成、論文を書くときの正しい漢字および仮名書きにする語、単位記号の表記法を示しています。そして今回より、論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを統一して表記することになりました。原稿を提出されるときは、本稿を参考に執筆、投稿してくださるようお願い致します。

I. 医学論文の種類

医学論文は、一般的に次の6項目に分類されていま す。以下に、それら論文の内容について記載します。

1. 原著 (Original)

自分自身の研究成果をまとめたものを原著といいます。これには学位論文などがあり、新しい知見を含むことが必要です。

2. 総説 (Review)

ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を 紹介するものを総説といいます。多くの参考文献を添 えるのが特徴です。

3. 症例報告 (Case Report)

珍しい臨床研究や剖検例、新薬の使用経験、特定疾患 の統計などが主で、考察のために多少の文献が必要です。

4. 臨床講義および解説

患者の実例を最初に述べ、その疾患診断、治療法などを総説的に説明したものを臨床講義および解説といいます。これらは、症例報告と総説の中間に位置します。

5. 速報 (Short Communication)

雑誌の速報欄、短報欄、投書欄などに載せるもので、 短い原著に近いものを速報といいます。

6. 抄録 (Abstract)

学会の講演要旨が代表的なもので、科学研究費報告 書なども一種の抄録です。一般的には字数に制限があ ります。

Ⅱ. 論文の構成

実験的研究の論文には、各章の標題として下記の用語が通常用いられています。以下に、各標題の執筆する内容について説明します。

1. 論文題名(Title)

題名だけで内容がほぼ想像できて簡潔なものが理想です。題名に副題(Subtitle)を付けることはなるべく避けたほうが良いとされていますが、副題を付けることにより、論文全体の内容を示す場合もありますので、絶対に不必要とはいえません。

2. 要旨 (Synopsis)

実験やシステムの開発、新しい技術、理論などを本 文とはまったく独立のものとして書きます。ここには議 論や解釈、文献の参照、図表は使いません。論文の中 心課題と本文の要点を手短に書いた文章でまとめます。

3. 索引用語 (Key Words, Index Terms)

本文の内容に関係ある単語を数個列記します。単語 は題名に含まれていなくて、論文の要素として重要な ものが良いとされています。

4. 緒言 (Introduction)

研究の目的や目標(新しい理論や原理の研究、原理 の応用、装置やシステムの開発や改良など)、問題の 定義、論文で取り扱う範囲、論文の背景、歴史的概観、 関連研究などを述べます。研究史を含ませることがあ り、研究方法が新しく開発されたものであれば詳しく 説明します。

緒言の代わりに『まえがき』、『はじめに』を使用することもあります。ただし、これに対応して『まとめ』、『おわりに』を用います。

5. 研究方法(材料と方法; Materials and Methods)

研究計画、研究の状態や条件、研究対象、対象を選ぶ方法、介入方法、すべての観察項目の明示、データ評価の統計学的処理法について詳しく記載します。

6. 研究成績 (研究結果; Results)

客観的データで、文章としては過去形に書き、本文 のほかに図表を含みます。

7. 考察 (Discussion)

他人の成績(文献)と比較しながら、自分の成績の 意味を説明し、自分の考えを主観的記述で現在形に書 きます。

8. 結論 (Conclusion)

実験成績と考察のまとめを主としますが、実験方法 に少しふれる場合もあります。しばしば箇条書きにさ れます。

統括的なことを述べ、序論で提起した問題に本論で どのように答えたかをまとめるとともに、理論や結果 の正当性、有意性 (利点だけでなく欠点も含む)、他 の研究との違い、応用性、今後の課題などを述べます。

『結論』は、独自の理論や原理を扱った論文に用いることが多く、『まとめ、おわりに』は、解説的、一般的あるいは実用的な論文などで、考察の結果を一言で表現できる場合や、緒言で何か疑問を提起し、それ

に対して Yes. No で結ぶときに使われています。

9. 文献 (References, Literature)

論文に関係し、本文中で引用したものを書きます。 文献は全編を通じて出てきた人名とその論文の出所を 記録します。

Ⅲ. 漢字および仮名書きにする語について

論文を書くにあたり、一般的に仮名書きにする語、なるべく仮名書きにする語、原則として漢字を使用する語、および正しい送り仮名を表にまとめました。論文を執筆されるときの参考にしてください。

【漢字を用いてはいけない例】

宛も	(あたかも)	即ち	(すなわち)	筈	(はず)
或る	(ある)	総て	(すべて)	殆ど	(ほとんど)
如何なる	(いかなる)	折角	(せっかく)	略	(ほぼ)
何れ	(いずれ)	其の	(その)	寧ろ	(むしろ)
所謂	(いわゆる)	それ等	(それら)	迄	(まで)
於いて	(おいて)	先ず	(まず)	勿論	(もちろん)
凡そ	(およそ)	為に	(ために)	尤も	(もっとも)
及び	(および)	唯	(ただ)	以て	(もって)
却って	(かえって)	只	(ただ)	矢張り	(やはり)
此処	(ここ)	忽ち	(たちまち)	稍	(やや)
茲に	(ここに)	兎に角	(とにかく)	由って	(よって)
如く	(ごとく)	丈	(だけ)	判る	(わかる)
之	(これ)	誰	(だれ)	吾	(わが)
毎に	(ごとに)	乃至	(ないし)	僅かに	(わずかに)
然し	(しかし)	尚	(なお)	亘り	(わたり)
併し	(しかし)	何故	(なぜ)		
頗る	(すこぶる)	の外	(のほか)		

【なるべく仮名書きする語】

且つ	(かつ)	その位	(そのくらい)	出来る	(できる)
が在る	(がある)	それ故	(それゆえ)	で良い	(でよい)
が無い	(がない)	但し	(ただし)	又は	(または)
殊に	(ことに)	就いて	(ついて)	全く	(まったく)
する事	(すること)	と言う	(という)	の通り	(のとおり)
する時	(するとき)	の処	(のところ)	の様に	(のように)
する程	(するほど)	と共に	(とともに)	若しくは	(もしくは)

【原則として漢字を使用する語】

明るく	(あかるく)	現に	(げんに)	常に	(つねに)
至って	(いたって)	更に	(さらに)	特に	(とくに)
一切	(いっさい)	去る	(さる)	突然	(とつぜん)
大いに	(おおいに)	少し	(すこし)	何	(なに)
恐らく	(おそらく)	既に	(すでに)	並びに	(ならびに)
及ぼす	(およぼす)	実に	(じつに)	の場合	(のばあい)
必ず	(かならず)	その際	(そのさい)	初めて	(はじめて)
彼	(かれ)	大抵	(たいてい)	果たして	(はたして)
辛うじて	(かろうじて)	絶えず	(たえず)	再び	(ふたたび)
来たす	(きたす)	互いに	(たがいに)	最も	(もっとも)
来る	(きたる)	例えば	(たとえば)	専ら	(もっぱら)
極めて	(きわめて)	次いで	(ついで)	我が国	(わがくに)
概して	(がいして)	次に	(つぎに)	私	(わたし)
偶然	(ぐうぜん)	努めて	(つとめて)	我々	(われわれ)

[&]quot;最も"は最上級を表すときは漢字で、"ただし"の意味で使用するときは仮名書きにします。

[&]quot;並びに"、"又は"などの接続詞を漢字の直後に使用すると、漢字の続きとして読まれる恐れがありますので、 漢字直後の場合だけ仮名書きにします。

ほし	い送り	仮名】
----	-----	-----

明らかに	(あきらかに)	潤す	(うるおす)	賜る	(たまわる)
鮮やか	(あざやか)	補う	(おぎなう)	慎む	(つつしむ)
味わう	(あじわう)	幼い	(おさない)	冷たい	(つめたい)
暖かい	(あたたかい)	恐ろしい	(おそろしい)	貫く	(つらぬく)
新しい	(あたらしい)	陥る	(おちいる)	滞る	(とどこおる)
侮る	(あなどる)	顧みる	(かえりみる)	伴う	(ともなう)
危ない	(あぶない)	輝く	(かがやく)	懐かしい	(なつかしい)
謝る	(あやまる)	偏る	(かたよる)	働く	(はたらく)
誤る	(あやまる)	必ず	(かならず)	翻す	(ひるがえす)
表す	(あらわす)	汚い	(きたない)	短い	(みじかい)
著わす	(あらわす)	異なる	(ことなる)	難しい	(むずかしい)
現れる	(あらわれる)	断る	(ことわる)	群がる	(むらがる)
著しい	(いちじるしい)	盛んに	(さかんに)	珍しい	(めずらしい)
偽る	(いつわる)	従う	(したがう)	専ら	(もっぱら)
承る	(うけたまわる)	少ない	(すくない)	軟らか	(やわらか)
失う	(うしなう)	速やかに	(すみやかに)	煩う	(わずらう)
促す	(うながす)	平らに	(たいらに)		
占う	(うらなう)	確かめる	(たしかめる)		

Ⅳ. 度量衡に用いる単位や記号

度量衡の表記には原則として日本工業規格(JIS)が準拠する国際単位系(SI)を用いるが、圧力や容積などでは慣用計量単位を用いてもよい。(以下に例を示す)

長さ	メートル	m	圧力	キログラム毎平方メ	ートル	濃度	ミリグラム毎デシリ	ットル
	センチメートル …	cm			kg/m^2			mg/dL
	ミリメートル	mm		水銀柱ミリメートル			ピコグラム毎デシリ	ットル
	マイクロメートル	иm			mmHg			pg/dL
面積	平方メートル	person		水柱センチメートル	·		ミリモル毎リットル	
IM/IM	平方センチメートル				cmH ₂ O		*********	mmol/L
	T/1 C2 / X 1/V			メガパスカル	MPa		モル毎キログラム	
休鴰,灾鴰	立法メートル			キロパスカル	kPa		•••••	mol/kg
件很 廿根	立法センチメートル			ヘクトパスカル …	hPa	割合	百分率	%
	立伝でクケメートル		速さ	毎秒メートル	m/s		百万分率	ppm
	リットル	C111		毎秒ミリメートル	cm/s	電磁気	アンペア	A
	デシリットル	_	回転速度	毎分回転数	rpm		クーロン	Q
	ミリリットル			角速度	1		ボルト	V
質量	キログラム	******		周波数			オーム	Ω
貝里		0	角度	度数			ワット	W
	グラム	8	丹及	平面角			ジュール	Ī
	ミリグラム	0		1 1-47 2			ジーメンス	J
	ニュートン	N	冶本	立体角			デシベル	
			温度	絶対温度	K) 244)0	u.D
				セルシウス氏温度	%			など

Ⅴ. 会誌掲載にあたり統一して表記する用語

論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを 統一して表記することになりました。日本語(漢字) 表記を基本に、適切な漢字表記がない場合はカタカナ 表記としました。カタカナ表記が適切でない場合に 限って英語表記としました。カタカナの長音について は、内閣告示第二号を参考にしています。従来は一般 的に「2音の用語は長音符号を付け、3音以上の用語の場合は(長音符号を)省くこと」というルールが採用されていましたが、新聞や放送が概ね内閣告示第二号の『外来語の表記』を参考にしていることから、当医学会でも長音符号を付けることを原則とします。